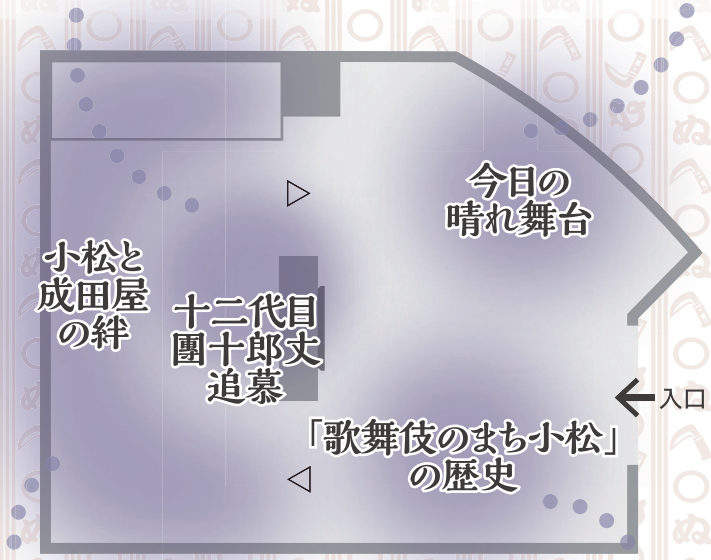
歌舞伎のまち 小松

石川県小松市は城下町、空港の町、国際的企業コマツのふるさと、九谷焼の里…などさまざまなキャッチフレーズがあります。歌舞伎もそのキーワードのひとつ。毎年五月に行われる「お旅祭り」では神輿や獅子舞も有名ですが、呼び物は「曳山」。八つの町が守る個性豊かな曳山の舞台で歌舞伎が奉納され二五〇年以上の歴史を重ねています。演じるのは小学生のこどもたち。大人は歌舞伎を指導する人、義太夫を語り、三味線を演奏する人、そして毎年見物する人…芝居に詳しい人がたくさんいる「歌舞伎のまち」です。加えて、市内にある「安宅の関」は能「安宅」、それを原作とした歌舞伎「勧進帳」の舞台となった地。勧進帳の物語から八百年を記念に開催された「勧進帳小松八百年祭」を機にはじまった成田屋と小松の絆。十二代目市川團十郎の教えのもと、市内10の中学校では「勧進帳」を授業にとりいれ、持ち回りで公演もしています。そうした経緯を踏まえ、平成11年から全国のこども歌舞伎の団体を招いて「日本こども歌舞伎まつり」を開いています。市のキャラクターは弁慶をイメージした「カブッキー」、合言葉は難関突破。小松はどこから見ても「歌舞伎のまち」なのです。

十二代目團十郎さんが子ども歌舞伎を指導する姿を通して、小松に遺してくれた歌舞伎への想いに触れることができます。
また團十郎さんゆかりの品々もご覧いただけます。

十二代目市川團十郎さん、十一代目市川海老蔵さんの写真パネルと記念撮影をお楽しみください。
背景にはこまつ芸術劇場うらら大ホールにある松羽目を配しています。



團十郎家を受け継ぎ、新たな歴史をつくる、十一代目市川海老蔵さんをはじめとする成田屋の皆さんの姿を紹介します。展示品からは、成田屋の幅広い活躍を知ることができます（一部展示替え有り）。

小松市で毎年開催される数々の歌舞伎関連行事。そして、それらを受け継ぐ子どもたちの活躍を紹介します。大型映像では、子ども歌舞伎による「勧進帳」の上演をご覧ください。

歌舞伎のまち TOPICS

●曳山子供歌舞伎

毎年5月のお旅まつりで演じられます。250年以上もの長い歴史があり、近江長浜、武蔵秩父とともに日本三大子供歌舞伎のひとつとして受け継がれています。

関連施設：こまつ曳山交流館 みよっさ
高さ7メートル近い曳山2基を常設展示

●日本こども歌舞伎まつり in 小松

平成11年から毎年5月に開催されます。日本各地に受け継がれる子供歌舞伎を招き、小松の小学生を中心とした子どもたちと競演します。

関連施設：石川県こまつ芸術劇場「うらら」

●小松市中学校 文化連盟古典教室

毎年11月にうらら大ホールで、中学生による「勧進帳」を開催。小松市内の中学校が持ち回りで、歌舞伎継承に力を合わせます。役者、長唄・囃子方に出演のほか、裏方も生徒たちの手で行われます。

関連施設：勧進帳ものがたり館
歌舞伎の魅力を発信。勧進帳の世界を体感できます。